



TOKIO MARINE
NICHIDO

東京海上日動火災保険株式会社

(2016年11月2日)

TOKIO MARINE Topics (物流関連速報)

アイスランド・カトラ火山の噴火リスクが物流に与える影響

今夏アイスランドで観測された2度の地震の影響で、アイスランド最大の火山噴火に近いのではと不安が高まりました。今回の Topics は、アイスランド・カトラ火山の噴火が世界の物流に与える影響についてお届け致します。

1.地震により懸念されるカトラ火山の噴火リスク

アイスランドは北大西洋上の島国で、海底から東西に分かれてプレートが生まれる大西洋中央海嶺の延長線上に位置し30の活火山があり、110の活火山がある日本と同様に火山活動が活発です。アイスランドの東半分はユーラシアプレートの西端に当たり、糸魚川静岡構造線以西の西日本が同じユーラシアプレートの東端に当たります。

今年8月29日にカトラ火山の周辺で、マグニチュード(M)4.5の地震が2度にわたり観測されました。カトラ火山はアイスランド最大の火山で、歴史上約50年ごとに噴火を繰り返してきましたが、1918年以来大規模な噴火は起きておらず、今年8月を機に活発化した地震活動が噴火との関連性があるのではないかと懸念されました。

気象当局は「今回の地震はここ数年の夏の時期に観測された氷河の融解がもたらす地盤内の水圧の増加が関係する地震と類似しており、マグマの動きを示す兆候はとらえられていない」と説明しており、専門家も「噴火が差し迫っているわけではない」との見解でありながらも、「噴火の可能性は排除できない」との見方を示していることから、不安が高まりました。気象当局は9月30日にカトラ火山の噴火警戒レベルを5段階の下から3番目の「Yellow」に引き上げましたが、10月5日には下から2番目の「Green」に戻されました。



2010年4月18日当時、アイスランドのエイヤフィヤトラヨークトル火山噴火によりヨーロッパを始めとした広域で航空運航に多大な混乱が生じた(写真:アフロ)



2. 火山噴火の物流への影響

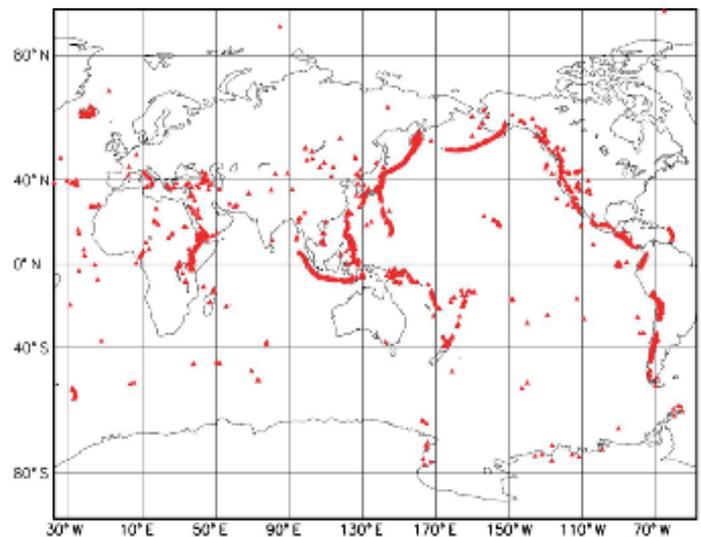
火山が噴火した場合、周辺の降灰地では広範囲にわたり火山灰による視界不良、エンジンへの影響、電力の停止や信号・システムの誤作動、路面やレールのスリップなど、様々な障害により陸上交通への深刻な影響が生じることが考えられます。

航空輸送への影響は、これよりもさらに広範囲に及ぶことが考えられます。まず、降灰地域にある空港は、灰を除去しない限り離発着が出来なくなり、閉鎖を余儀なくされる可能性があります。また、空気中に火山灰が漂っていると、ジェットエンジンが火山灰を吸い込みエンジントラブルを起こして飛行困難となる可能性があるため、航空機を運航できなくなります。

実際に、カトラ火山に近いエイヤフィヤトラヨークトル火山が 2010 年 4 月に噴火した際には、影響はアイスランド国内にとどまらず、火山灰が欧州上空に広く滞留した影響で、約 30 か国の空港が閉鎖され、8 日間にわたり 10 万便以上が欠航となる等、欧州のみならず世界中の航空輸送に多大な影響を及ぼしました。前回の 1918 年のカトラ火山の噴火の際は、2010 年のエイヤフィヤトラヨークトル火山の 5 倍もの火山灰が噴出したとされています。

カトラ火山の警戒レベルは引き下げられましたが、次の噴火は、起きるか起きないかではなく、いつ起きるかの問題とも言われています。また、このような物流に影響を与える恐れがある火山があるのはアイスランドのみではありません。

日本国内でも富士山の噴火を想定した防災計画も立てられ始めていますが、世界各地での噴火による航空輸送を中心とした物流への影響、サプライチェーンの寸断リスクに備え、重要な輸送ルートに影響を与えるリスクの確認、代替輸送・備蓄の確保といった対応を検討することが重要と考えられます。



世界の火山分布状況

出典:内閣府ホームページ

(<http://www.bousai.go.jp/kazan/taisaku/k101.htm>)



本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。

船舶・貨物・運送の保険の情報サイト「マリンサイト」

http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/index2.html